

40th anniversary
EDITION

ボーイスカウト鎌倉第5団
発団40周年記念誌

Celebrating 40 years



発団40周年を迎えて

ボーイスカウト鎌倉第5団 団委員長 當麻洋一

私たちの鎌倉第5団は、昭和49年に西鎌倉の丘の上で14名のカブスカウトにより産声を上げました。翌昭和50年正式に団として日本連盟の承認を受け、その夏には西鎌倉幼稚園の広場をお借りして初めてのキャンプを行いました。今は立派な園舎が建っている崖下の土地も、その頃はまだまだ未整備で一面に夏草が生い茂っていた記憶があります。その広場まで崖を降りる階段を作り、ホースをつないだ臨時水道を引き、友団からお借りした2張のテントに10数名のカブスカウトが入って楽しい一泊の野営を行った、それが今からちょうど40年前ということになります。

発団当時の団委員長は、現・育



成会顧問の大村貞雄さん、初期の隊指導者は大村さんのご縁で日産の職域ローバースカウト隊から応援をいただき、文字通りすべてが手作り、ゼロからのスタートでした。

以来今日まで、私たちの団がきちんと活動を続けて来ることができたのは、地域の皆様を始めてとして、当初から活動の拠点を提供いただいた西鎌倉幼稚園様、湘南地区に所属する鎌倉・藤沢・逗子・葉山の各友団のスカウト仲間、代々の隊長や隊指導者・団委員長としてスカウトの訓育と団運営にご奉仕いただいた成人各位、そして子供たちの健やかな成長を願って我が子をスカウト運動に参加させ、また自らも活動にご協力戴いた多くの保護者の皆様のご理解とお力添えがあつたことです。その内の幾人かは、残念ながら既に幽明境を異にされていらっしゃいますが、かような皆様の永年にわたるご支援に対して、現在団に籍を置く者を代表し、また、この団に育てられた者の一人として、改めて深く感謝申し上げる次第です。

申すまでもなく、私たちの運動の主役は青少年たちです。この度の周年記念の取り組みは、単に来し方を振り返り、40年の歩みを回顧するだけではなく、今現在のスカウトたちの元気な姿をより多くの関係者にご覧戴き、「よりよき社会人」への成長の糧となる楽しく有意義な活動の実践・継続を、彼ら・彼女たち自身が本団に関わる皆様とともに確認し合い、誓い合う場、未来へのスタート地点にしたいと考えました。

また、本団は、同じ鎌倉市内の友団・鎌倉第7団との組織統合を経て今日を迎えています。今回の記念行事は、旧鎌倉第7団の活動に対して長らくお力添えを賜った皆様方にも感謝の念を表し、その伝統と思いを引継ぐことをお約束する機会でもあります。

さて、スカウト諸君、みんなは学校や幼稚園でリレー競争をしたことがありますね。リレーのバトンは、その途中でランナーがたった一人欠けただけでも後にはつながりません。たとえ走るが遅くても、途中で転んでしまったとしても、一人ひとりが必ずバトンを次の人にきちんと手渡す。これが大切です。

それは、私たちのボーイスカウト活動も同じです。君たちの前には、この40年の間、

鎌倉第5団のバトンをつなぎ続けて来たたくさんのランナー・先輩スカウトがいます。そして、君たちの後ろにも同じようにこれから走り出すランナー・後輩スカウトが待っています。私たちの団がこれからも元気よく走り続けて行けるかどうかは、現役ランナーである君たちの走りっぷり、そしてきちんと後に続く仲間たちにバトンを渡す責任を果たしてくれるかどうかにかかっているのです。

どうか、これからもスカウトらしく元気よく、目の前に広がっているトラックを自分自身の足でしっかりと走り、楽しい活動のバトンをつなぎ続けて行って欲しいと思います。先輩ランナーの一人として君たちに大いに期待しています。

スカウトたちは、今も昔も、平素の活動を通じて強くなやかな心と丈夫な体、他の人々の助けとなる様々な技能を身に付けて、この国と郷土の未来を立派に担うために修行中の「平和の騎士」たちです。ご関係の皆様方には、彼ら・彼女たちのこれからの更なる精進と笑顔と可能性を、いつまでもどこまでも見守り続けて戴けますよう、これまでのご厚情への感謝とともに改めてお願い申し上げます。発団40周年に際してのご挨拶とさせていただきます。

おめでとうございます

育成会会長 鈴木晴美

神奈川県連盟湘南地区ボーイスカウト鎌倉第5団発団40周年、誠におめでとうございます。

これもひとえに、歴代の団委員、指導者、保護者の皆様及びスカウト諸君の志しを、現在まで確実に引継ぎ、継続していただいている、現団関係者の皆様並びに現役スカウト諸君のおかげと心より感謝申し上げます。

私は、一昨年より鎌倉第7団から当時の7団指導者、スカウトと共に第5団に移籍させて頂きましたが、第5団の団委員会組織、指導者連携には素晴らしいものがあり、このあたりも40周年を迎えることができた大きな要因であるかと存じますので、ますますのより良い連携の継続をよろしくお願いいたします。

しかしながら、私たちボーイスカウト活動をとりまく環境も少子・高齢化が進みスカウト人口の減少が顕著です。団運営にも厳しさが増してきております。

また、以前には考えも及ばなかったような青少年問題がなくなり、青少年をとりまく環境の複雑化等々、時代の大きな変化を感じております。今後は今以上に学校教育だけではなく、社会教育、情操教育の面でも新たなあり方が必要とされておりますので、国際的な活動も視野に入れているボーイスカウト運動のスカウト精神と教育方針をしっかりと見据え、「ちかい」と「おきて」を実践し、心豊かで健全な青少年の育成のお手伝いを目指し、鎌倉第5団育成会として活動をさせていただく所存です。

結びに、鎌倉第5団の益々の発展と皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げて、お祝いの言葉とさせていただきます。



40年を振り返って

顧問 大村貞雄

鎌倉第5団が西鎌倉の地で生まれ、発団40周年を迎えたことに、心からお祝い申し上げます。また、5団が活発に活動を続け、ここまで発展してきたことに、改めて敬意を表する次第です。

5団の発団に至った経過は、西鎌倉の方々の要望で、子供たちによりよい活動の場を与え、育てていくためにはボーイスカウト活動が最適ではないかとの、父母の熱い思いが発団の原点でした。そして西鎌倉幼稚園の福田園長先生の参加とご協力により、発団の体制が整ってきたものの肝心のリーダーの参加が得られず苦慮していたところ、ボーイスカウト横浜51団ローパー隊の参加を得たことですべてが整い、何とか発団することができました。

発団当時に参加していたスカウトは、今と違い元気で活発に動き回り、まとめることが難しかったと記憶しています。それでも私も若かったもので、ともに活動に参加し楽しみながら頑張ることができました。また、この地での活動が認められ、年々入団希望者も多くなり、一時期にはあまりにも多くの希望者があり、やむを得ず面接をして入団を決めたこともありました。

スカウトもキャンプやラリーに積極的に参加し、活発に活動を続けてきたことで、発団当時から地区のラリーでは優勝することが多く、常に他の団から挑戦を受けたものです。そして活発な活動が伝統となり、今日に至っています。また、こうした貴重な経験を身に付け社会人となったスカウトたちが、今なお活動に参加してくれていることも大変うれしく思います。

今後、時代がどう変わるかわかりませんが、発団50年に向け、初心を忘れずにチームワークで頑張っていきたいと思います。



Celebrating 40 years

発団40周年によせて

鎌倉市長 **松尾 崇**

ボーイスカウト鎌倉第5団の発団40周年、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

40年前に西鎌倉で発団されて以来、今まで野外活動や奉仕活動を通じて、地域の青少年の健全育成にご尽力いただいております。歴代役員の方々をはじめ、指導者並びに保護者の皆様には心から敬意を表しますとともに、厚く御礼申し上げます。

ボーイスカウトの活動を通して育まれる、「いのちを尊重する心」、「仲間と話し合い協力する心」、「モラル・正義感」、「自然や美しいものに感動する心」は、これからのグロー

バル社会で力強く生き抜くための「力」の基礎となります。心と身体が成長する少年期・青年期に、学校や家庭では体験できないさまざまな活動を多くの仲間とともに乗り越えていくことは、何よりの財産になることでしょう。そして、鎌倉第5団で健やかな心と身体に育った次代を担う子どもたちが、さまざまな舞台で活躍していただけることを期待しています。

私自身も、鎌倉第5団に入団し活動してきましたことは今でも大切な思い出となっています。そして、スカウトのモットー「そなえよつねに」をいつも心に持ち、刻々と変化する社会・環境のなかで、いつどんなときもよりよい対応ができるよう、自分の頭で考え、適切に行動できる身体を維持していきたいと考えています。

また、市といたしましても、学校・家庭・地域との連携、さらには貴団をはじめとする関係団体との協働により、積極的な施策の推進を図り、子どもたちが地域と共に歩み、元気に育つまちづくりを目指し、今後も全力で取り組んでまいります。

結びに、ボーイスカウト鎌倉第5団が発団40周年を契機として、さらなる発展を遂げられますとともに、皆様のますますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



発団40周年に寄せて

日本ボーイスカウト神奈川連盟湘南地区協議会長 **吉原滋彌**

40周年、おめでとうございます。長きにわたって、団を支えて下さった先人の方々、そして現在、団を盛り上げているスカウト諸君、スカウトを支える保護者並びに指導者の方々に敬意を表します。さて、本運動を創設された創始者ベーデン・パウエル卿



の目的は良き社会人、国際人の育成で鎌倉第5団は湘南地区の指導的団として運動の目的通り多くの素晴らしい人材を育成されています。ミスター

ボーイスカウト、また日本のスカウト運動の中興の祖と言われている第4代総長の三島通陽氏は半世紀以上前に「音なき交響楽」という随筆集を遺されました。そのエッセイ集の多くはボーイスカウトについての記述に割かれており、現代においても色褪せておらず示唆に富むものとなっています。表題の意味はオーケストラが演奏する交響楽は素晴らしいハーモニーで聴覚に訴えますが、ボーイスカウトは多くの人々が分担されたパートを実行し、心地よい調和のとれた雰囲気を醸し出す。この雰囲気を三島総長は「音なき交響楽」と表現されたのです。

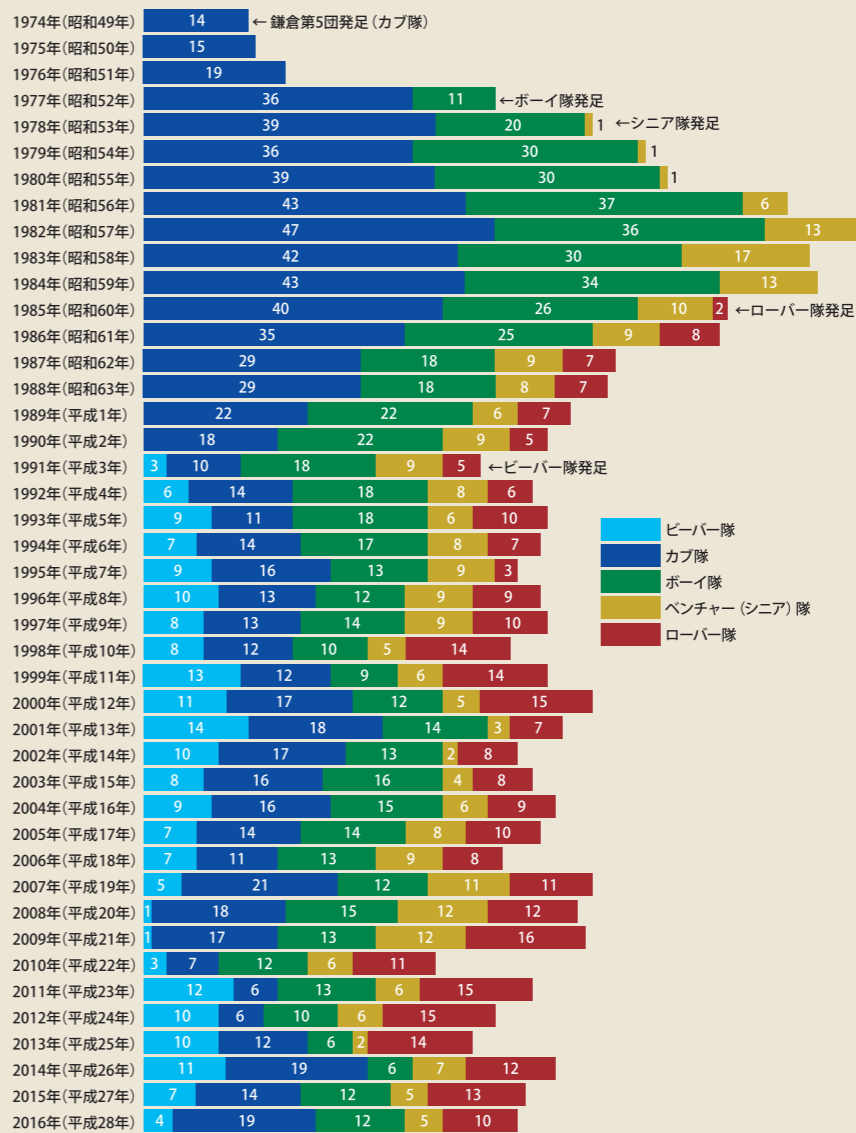
6月にお招きいただきました40周年式典の進行および会場はまさしく素晴らしいハーモニーを奏でられており、鎌倉第5団の素晴らしさを実感いたしました。主役たるビーバースカウトよりローバースカウトの活きた活動、それを支える保護者の方々の本運動への期待に溢れた支援、そして

指導者の方々の自らの時間を割いてのスカウトへの支援が素晴らしい式典を創りだし、日頃の精進の一端を垣間見たような気がいたしました。

最後に三島総長のお師匠さんにあたる後藤新平初代日本連盟総長の残された言葉を引用いたします。『少年の教育機関としては、学校もあれば、家庭もある。しかし少年の心に、最も偉大なる感化を及ぼすものは社会の教化である。学校と家庭と社会。此の三つの力で少年は、教化されるものでありますが、少年団とは、實に此の三要素を合はせた、自治の訓練場又一大倫理運動場であります。自治的國民を養成すべき、社会の土臺石であって、少年団の自治が、やがて國民の自治となり、遂に文明社会の柱となるのであります』

今後も鎌倉第5団に関わる多くの人々が本運動の原理、素晴らしさを理解され、頼もしいスカウトを輩出されることを心より期待しております。彌榮

【スカウト登録人数推移】



【歴代指導者】

		平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
RS	隊長	樋下田和彦	樋下田和彦	樋下田和彦	樋下田和彦	樋下田和彦	樋下田和彦	樋下田和彦	樋下田和彦	樋下田和彦	樋下田和彦
	副隊長	藤木健太郎	藤木健太郎	藤木健太郎	藤木健太郎	藤木健太郎	藤木健太郎	藤木健太郎	藤木健太郎	藤木健太郎	藤木健太郎
VS	隊長	吉川太一	吉川太一	吉川太一	吉川太一	吉川太一	吉川太一	吉川太一	吉川太一	吉川太一	吉川太一
	副隊長	鶴田淑之	鶴田淑之	鶴田淑之	鶴田淑之	鶴田淑之	鶴田淑之	鶴田淑之	鶴田淑之	鶴田淑之	鶴田淑之
SS	隊長	三浦元裕	三浦元裕	三浦元裕	三浦元裕	三浦元裕	三浦元裕	三浦元裕	三浦元裕	三浦元裕	三浦元裕
	副隊長	土田兼彰	土田兼彰	土田兼彰	土田兼彰	土田兼彰	土田兼彰	土田兼彰	土田兼彰	土田兼彰	土田兼彰
	副隊長補	齋藤牧雄	湊達治	湊達治	佐々木孝文	佐々木孝文	高田篤人	高田篤人	高田篤人	高田篤人	高田篤人
	隊長	湊達治	吉川洋平	吉川洋平	吉川洋平	吉川洋平	佐々木孝文	佐々木孝文	佐々木孝文	木村弥生	木村弥生
CS	副隊長	吉川洋平	高田篤人	高田篤人	高田篤人	高田篤人	吉川洋平	吉川洋平	吉川洋平	杉谷直樹	八戸祐樹
	副隊長	中島美和子	中島美和子	鈴木英紀	鈴木英紀	木村弥生	木村弥生	木村弥生	木村弥生	八戸祐樹	赤坂高広
	副隊長補	木村友則		小島寛史			鶴田峻平		鶴田峻平		
	隊長	鈴木英紀	鈴木英紀	鈴木英紀	新井克基	新井克基	新井克基	新井克基	新井克基	山内政敏	山内政敏
BVS	副隊長	三牧奈保美	三牧奈保美	木村弥生	木村弥生	菊池洋二	浦山和久	浦山和久	浦山和久	新井克基	久保貴一
	副隊長	小早川真純	小早川真純	新井克基	菊池洋二	村田隆一	村田隆一	岩城秀卓	岩城秀卓	笹沼武志	久保貴一
	副隊長	木村弥生	木村弥生	佐々木孝文	川村朋代	川村朋代	浦山和久			久保貴一	久保貴一
	副隊長補	高田篤人		岩城秀卓	岩城秀卓	岩城秀卓	岩城秀卓				鈴木大二郎
BVS	隊長	上野眞由美	上野眞由美	上野眞由美	上野眞由美	上野眞由美	守田智恵	守田智恵	守田智恵	守田智恵	守田智恵
	副隊長	守田智恵	守田智恵	守田智恵	守田智恵	守田智恵	川崎康平	川崎康平	川崎康平	入内島太郎	秋山英幸
		新井克基		川崎康平	川崎康平		笹沼武志	鈴木大二郎	鈴木大二郎	鈴木大二郎	大久保忠昌

【歴代褒章受章スカウト】

◎富士章

- 吉川太一(平成7年度)
- 吉川洋平(平成9年度)
- 土田兼彰(平成13年度)
- 服部幸広(平成13年度)
- 八戸祐樹(平成23年度)

◎隼章

- 将積太郎(昭和63年度)
- 吉川太一(平成7年度)
- 田中宏顕(平成7年度)
- 吉川洋平(平成8年度)
- 鶴田淑之(平成8年度)
- 守田なつみ(平成27年度)

◎菊章

- 井戸毅士(昭和55年度)
- 加藤正樹(昭和56年度)
- 當麻洋一(昭和56年度)
- 松尾 宏(昭和56年度)
- 串田淳一(昭和57年度)
- 宮地 宙(昭和62年度)
- 柳川一徳(昭和62年度)
- 川口 徹(平成1年度)
- 宮地 存(平成1年度)
- 古堅康浩(平成1年度)
- 服部幸広(平成10年度)
- 川崎康平(平成14年度)
- 三木俊佑(平成15年度)
- 八戸祐樹(平成19年度)
- 守田なつみ(平成23年度)
- 武 祐三(昭和55年度)
- 河野能顕(昭和56年度)
- 藤井 威(昭和56年度)
- 岡野 務(昭和57年度)
- 三浦元裕(昭和62年度)
- 加藤弘泰(昭和62年度)
- 中島弘樹(昭和63年度)
- 燕 敏之(平成1年度)
- 藤木健太郎(平成1年度)
- 土田兼彰(平成10年度)
- 古屋朋寛(平成10年度)
- 小島寛史(平成14年度)
- 佐野航平(平成15年度)
- 上野詩歩(平成21年度)

こんなことをやりたい!



あだち すみれ (小2)

7月末に、東京のとよすからかまくらにひっこしてきました。はやくみんなとなかよくなって、名前をおぼえて、たのしくつどうしたいです。
神奈川県のこと、かまくらのこともいろいろ知りたいです。かまくらにはすばらしいきしがあります。むかし、どこでどんなことがあったのか知りたいです。

大久保勇作 (小2)

ぼくは、ビーバーたいで正月に羽ねつきをしたいです。なぜかという、とてもたのしい、おもしろいと思うからです。それと、はごいたに自分の名前やオリジナルの絵をかきたいです。さいごに、なんかいつけるか、きょうそうしてみたいです。

ながぎ よしゆき (小2)

いそそびがたのしかったので、もう一回やりたいです。いそそびでは、カニとエビしかとれませんでした。こんどは、魚つりや虫とりをしたいです。魚つりは、いっぱいつってかんさつをして、食べてみたいです。虫とりは、レアな虫をつかまえられるから、その二つをやりたいです。あと、でっかいバームクーヘンも、やってみたいです。

今井 洸太 (小2)

ぼくは、ボーイスカウトで魚つりがしたいです。魚がすぎて、かわいく色あざやかでしゅるいがほふだからです。つりはしたことがあるけれど、川で魚が一しゅるいしかいなかったから、えのしまの岩ばでやりたいです。岩ばは魚のすみかになって、いっぱいいます。つりのどくは、じ分で作ります。たいなが、の村そうけんから細いささをもって来ます。つった魚をそだてて大きくなったら、ようち園の広場で火をおこして、やいて食べます。

かまた こたろう (小2)

ぼくは、キャンプで電気づくりをやりたいです。まず、水車を作って電気をテントにながしたり、夜のおふろから帰るとき、夜の山をくだって、そこにテントがわかりやすいようにしたいです。なぜかという、夜のテントに帰る時、みんながどっかにまよわないようにするためです。ボーイたいになったら、みんなのやくになつことがしたいです。

さの としや (小2)

ぼくは、なつにはプールでおよぎたいです。あきには、はっぱやえだをさがしたいです。冬には、ゆきでゆきごっせんをしたいです。春には、カブで、色いろな新しいかつどうをしたいです。ぼくは、きせつごとに、しぜんをたのしみながらかつどうしたいです。これからも、できればたい長になるまで、ボーイスカウトをつづきたいです。

びとう しゅん太 (小2)

ぼくは、キャンプで二はく三日とまりたいです。やってみたいことは、バーベキューをすることです。あとテントを自分たちではりたいたいです。天体かんそくをして、ながれ星をみたい。あと、ふじと山もしたいです。なぜなら、カブのおにいさんが話しているのを聞いて、いきたいと思ったからです。いちばん上までいきたいです。

のぼ りょう太郎 (小2)

ぼくがやりたいことは二つあります。一つ目はキャンプです。なぜかという、みんなといっしょにこうどうできたり、とまれるからです。二つ目はおもちつきです。なぜかという、みんなでじゅんぱんにおもちをつけるからです。おかあさんたちがあじつけしてくれたおもちも、とてもおいしかったです。がんばったかいがあったなあと思いました。

森 俊輔 (小1)

ぼくは九月からボーイスカウトに入りました。しん林公園から西かまくらようち園まで、森の中をあるいていきました。さむいほらあなをはっけんしました。白いまるいきのこをみつけました。それから、ぼくのグループがみちにまよいました。ドキドキしました。二年生は大きなこえをだしてさがしました。みんなとあえたときはうれしかったです。これからもハイキングとかキャンプをしたいです。

中村けんじろう (小2)

ぼくは、はたけの作りょうをしたいです。学校のはたけでいろいろな野さいをそだてて、たのしかったからです。その時、大きくなるかな? おいしくなるかな? と思、わくわくしました。だからボーイスカウトでもくわではたけをたがやし、たねをまき、そだてたいです。作ったりようりを仲間たちみんなとたべたら、たのしいし、おいしい、うれしい気持ちになって、もっと仲よくなれると思います。

びとう えいた (年長)

ぼくはきんぐで、4はくしたいです。かわでさかなつりをしたいです。つったさかなをやいてたべたいです。

さの かつや (年長)

なつのボーイスカウトで、うみであそびたいです。なみにのっておよぎたいです。
ふゆのボーイスカウトで、ゆきでゆきだるまをつくりたいです。いつもたのしいので、これからもボーイスカウトをつづきたいです。

わかい たいき (小2)

ぼくがしてみたいことは、「煙作り」です。なんでかという、楽しそうだからです。ぼくは、煙の作り方を知っています。まず、クワで土をたがやします。そして、うねを作ります。次は、パイプで地面を平らにします。その後は、たねをまいて水やりをします。ボーイスカウトでやればしゅうかく後、みんなでようりをして、食べることができるからです。

あだち とらのすけ (年長)

今年の夏に鎌倉に引っ越して来たので、少しでも早く地域を知り、慣れたいのと、友達を作ることを目的に入隊しました。(母)

おおくぼ えいすけ (年長)

いしのごかないがけを、のぼりたいです。

10年後のみんなに会えるかな? 守田

いしまで、いちばんたのしかったことは、キャンプと忍術修行です。 ビーバーのみんなといっしょに、おそんで、友だちをみつけたらいいです。

何でもちよつせんしたい! ビッグビーバー! 中村けんじろう

早くふじ山にのぼりたいです。 びとうしゅん太

さのかつや

ぼくがかまた、ほう、あし、おもしろがたです。 おおくぼえいすけ

山のはたけとキャンプにいきたいです。 木 俊輔

ぼくはボーイスカウトのたいちょうになりたいです。 のぼ りょう太郎

もちつゆがしたたけです。 びとうえいた

早くカブたいになりました。 またちとすけ

もっと、キャンプに行きたいです。 わかい たいき

はやくカブたいになりました。 かまた こたろう

水で、ほうであそぶのがたのしかったです。 大久保勇作

何が役にたつか。 いまにチャンスがあるか。 わからぬ...だからおもしろい。 (副長) 中村園子

ボーイスカウトの副長をやれれば良いなあと思つています。 (副長) 大久保忠昌

すーと

ボーイたいになって、ふじ山にのぼりたいです。 いまいこうた

隊長 守田智恵

リーダーとして関わって10年が経ちました。活動はエネルギーをもらえる楽しい時間、また、私自身の学びの場です。異世代が関わって長く続けていくことができるスカウト活動を皆で利用して、悩み、工夫し、相談しながら、お互いを見守り支えあっていけたらいいなと思います。

キャンプの思い出 1組 篇

カブ隊2015年キャンプ
 日程: 8月7日(金)~9日(日)
 場所: スカイバレーキャンプ場 (山梨県道志村)

カブスカウト最後のキャンプ

1組 組長 大箭明日香

今年のキャンプは、カブスカウトで最後のキャンプでした。今年のキャンプは今までのキャブの中で一番楽しかったと思います。

特に一番楽しかったことは、川遊びです。わたしは、その時初めて竹で水でっぽうを作りました。みんな水がかなり遠くまでとんでいたので、すごいと思いました。

あと、少し残念に思ったことは、キャンプファイアーです。実は、わたしはキャンプファイアーの始まる直前からずっとトイレをがまんしていたのです。それで、キャンプファイアーの時はずっと「早くおわらないかな、トイレに行きたいのにな」と思っていました。でも、みんなで歌ったりおどったり、げきをして、楽しかったです。

たった三日間のキャンプでしたが、わたしにとっては夏休み一番の思い出になりました。来年はボーイ隊になり、もっと大変な活動になると思いますが、楽しんで行動できればいいな、と思います。

スカイバレーキャンプ場で

1組 次長 鈴木大和

ぼくは、8月7~9日に、スカイバレーキャンプ場にキャンプをしに行きました。今回のキャンプで一番楽しかった事は、キャンプファイアーです。去年は、雨が降っていたため、室内でキャンドルファイアーをやりましたが、今回の方がやっぱりは力が有り、すごかったです。スカイバレーキャンプ場の有る、山梨県道志村は鎌倉と比べたら気温が低く、一日中涼しかったので、キャンプファイアーが、いつもよりあったかく感じました。毎年キャンプファイアーではカブスカウトの五年生がたいまつを持ち、キャンプファイアーに火をつける役をやっている、今回は僕達が火をつける役をやりました。たいまつを持った時は少し熱かったけど、無事に火をつけることができ良かったです。最初にたいまつを持った時は、けっこう重く、火をつけると、とてもきんきょうでしたが楽しかったです。無事に火をつけ終わったときはホッとしました。

もう一つの楽しかった事は、カブスカウトだけがやった沢登りです。スカイバレーキャンプ場の川の水はとても冷たくて足が凍りそうでした。川に入ったしゅんかんカエルをみつけました。とても大きく、ノソノソと歩いていました。体が重いせいか、ジャンプはほとんど失敗していました。プニプニしていて、とてもかわいかったです。川は、石がゴロゴロ転がっている所や、何も無い平らな所など色々ありました。小さな滝みたいな所もたくさんあり、びしょびしょになってしまいました。最後はオフロみたいにこしまでつかってさらにびしょびしょになってしまいましたが、清められた気がしてとても楽しかったです。



他にも楽しい事はたくさんありましたが思い出に残るキャンプになり、とても良かったです。

初体験! 沢登り

1組 井上留美音

キャンプの三日目に沢登りをしました。わたしは初体験!ドキドキワクワクしながらちようせんしました。川はとてもつめたくてびっくりしました。一日目も川遊びをしました。三日目のぼうがつめたかったです。岩に足をかけて登るのですが岩はこけでツルツルしていたり、足をかけるとグラグラしたりしていました。たきつぼがいっぱいあってわたしは足がはまってしまい、ズボンがびしょびしょになりました。急にはまって、びっくりしましたが面白かったです。きよりは長かったんだろうけどすぐにおわってしまったので、もうちょっとやりたかったです。けれど、沢登りをやっているさいちゅうハブニングがあったりすべ

たりしてとてもまんぞくしました。もし、家族だけで行っていたらまよったりして楽しくないと思うけどカブ隊のみんなで行ったからまよわず助け合いながら行けたので楽しかったです。またみんなと沢登りをしたいです。初体験の沢登り、最高です♡

沢登り

1組 大磯りょう

ぼくが一番たのしかったのは沢登りです。さいしょはかんたんだと思ったけど、じっさいにやってみると、けっこうたいへんでふかいところが2~3かしょあってそこに入ってみるとずぼんもぬれました。

たきのぼしよはいっぱいあってたきのぼしよをのぼろうとしてのぼったと思ったらころんでふくもぬれました。かえるときには山をあるきました。山を歩くときにマリンシューズに土が入ってじゃまだったので、またキャンプに行きたいです。

カブのキャンプ

1組 高田 廉

8月7・8・9日にカブのキャンプに行きました。山なし県の道志村のスカイバレーキャンプ場にいきまいました。りゅうこうみょう神社からバスにのって約2時間そのあと、3日分のもつをもってキャンプ場までのきゅうな坂を上って上へ上へとぼっていきまいました。

もちろんのぼりきったあとすぐつかれてしまいました。ロッジについたあと、自分のチームの名前をきめました、名前は「流れ星7(セブン)」になりました。夜、自分たちでカレーを作りました。一組VS二組でカレー対決をして一標さで一組が勝ちました。ねる前に、人数のかんけいでぼくは、二組に行くことになりました。ですが、二組のカレーにコーヒーがはいっていたことや、二組のみんなと夜、2時近くまでおきていました。

なぜが虫は、虫ざらいの人に集まりました。そのためか中電灯で虫を集めてたりして、おちつきましました。次の日、工作でネッカチーフを作りました。ピッカピッカになるまでみがいたのでつるつるになりました。

そして夜キャンプファイアーをやった、一組は、げきをやりました(日本昔話しがまざったものです)。キャンプファイアーの前に、合同ラリーをやりました。そのチームのフーロズンはんで歌を歌いました(国歌)。その日の夜は、すぐにねられました。つぎの日は、沢登りをしました。たのしかったです。そのあとバスで帰りました。ねむってしまいました。そして長いキャンプが終わりましました。

夏キャンプ

1組 岩澤良馬

これからぼくがキャンプの中で楽しかったできごとをしようかします。

1日目は、お昼ごはんにおにぎりを川のそばで食べました。食べた後は、川であそびました。川は、つめたくて、川の音がざあざあきこえてぼくがいつも見る川よりきれいでした。

つぎに川であそぶ人はあそんで、水でっぽうを作る人は水でっぽうを作りました。ぼくは、水でっぽうを作りました。ぼくは、水でっぽうを何回もしっぱいしながら作って、とても良い水でっぽうができました。水でっぽう大会を2回やりました。

夜ごはんを自分で作るの、はじめてでした。カレーを作るようになって、かくし味をえらびました。かくし味にガーリックとマヨネーズとケチャップを入れました。ふたつの組でどちらがおいしいのか、カレーたい決をしました。ぼくたちの1組が1点さでかちました。キャンプファイアーは、広場で、丸いわになってやりました。ぼくたちは日本トリプルむかしばなしをやりました。ぼくは、うらしまろうやくでし

た。ぼくとしては、上手にできました。2組はゆうれいのお話でした。歌は「つばさをください」を歌いました。ぼくはこの歌がとてもすきでした。

ぼくはこのキャンプで、川で水とうをひやしたらつめたくなっていて、すごいと思いました。川はむかしの人にとっても、物をひやすのにじゅうようなことが分かりました。

さわのぼり

1組 足田翔也

ぼくが一番楽しかったのはさわのぼりです。そこにカエルがいてびっくりしました。ぼくは動く石に気をつけて行きました。ふかい所や流れが強い所にも気をつけました。ずっとこえてとまるまで行きました。

そこでちょっときゅけいしました。また、ちょっと行ってふかい所でもきゅけいをちょっとしました。さいごまで行ったらももらへんまでぬれてました。でも川を上るのはすごいおもしろかったです。

感謝

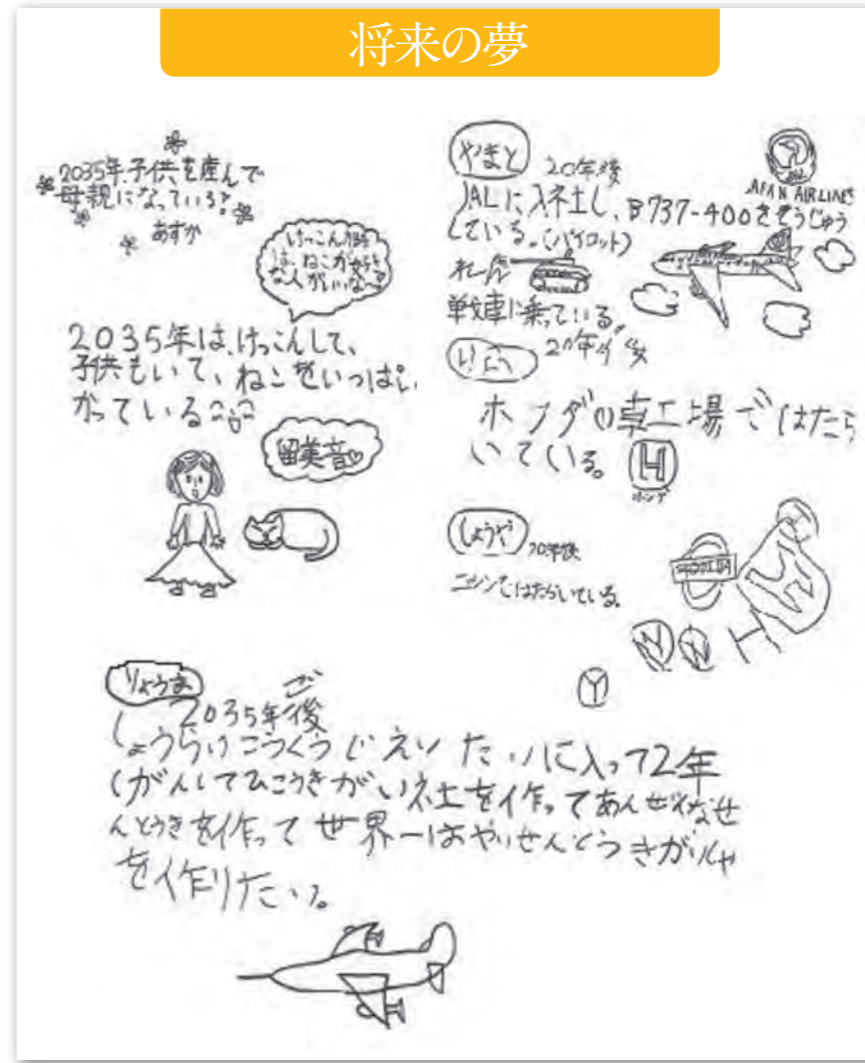
カブ隊1組 DL 波多野三保子

今回、デンリーダーをさせていただいて、感じていることは、隊長・副長をはじめスカウト活動を支えてくださっている方々への感謝の気持ちです。

自分自身は、子どもたちに接する態度に自信が持てず、悩むことが多々あります。

「スカウトは自分の子どもだと思って、褒めて、叱ってあげてください」との言葉をいただきましたが、叱ることは正直とても難しいです。注意をしてもその結果がでない時などは、人を指導するには自分は力不足だと感じています。でも、自信がないなど思っているものの、活動は毎回楽しく参加しています。魅力的な活動が多く、特に印象に残っているのは夏のキャンプです。どのスカウトも楽しそうで、様々な出来事にも自分なりの折り合いをつけている様子がみられ、大変頼もしく感じました。

スカウト活動を通じ、楽しみ、そして学ばせていただけて大変ありがたく思っています。



キャンプの思い出 2組 2編

カブ隊2015年キャンプ
日程：8月7日(金)～9日(日)
場所：スカイバレーキャンプ場（山梨県道志村）

キャンプの思い出

2組 組長 小谷理清

私がキャンプで一番印象に残ったことは、二つあります。一つ目は水鉄砲を作ったことです。最初は、自分の方に飛んで来て、全然遠くまで飛ばなかったけれども、隊長に工夫をしてもらおうと、遠くまで飛ばすことが出来ました。

二つ目は、キャンプファイヤーです。私は、キャンプファイヤーで火をつける、係です。係といふように、遅すぎるくらいに歩くことがとても難しく、何度も練習しました。辺りが暗くなり、いよいよ本番です。トーチに火をつけ、みんなの前を、通り過ぎまき火をつけると、あっという間に火がつかしました。そして、キャンプファイヤーが始まりました。最初のスタントは、私たち二組でした。私は、ゆうれいの役で、「一枚～二枚～」と言うと、ふつうに、「一枚、二枚」になってしまうので、たくさん練習しました。

本番では、上手に出来ました。ほかにも、いろいろなスタントがありました。一番おもしろかったのは、プレーブボーイ班でした。話し方や、動きが、とても上手だったので、さすがボーイ隊と思いました。本当にキャンプは、楽しかったです。



ておもしろかったりしました。今年もいい夏休みの思い出にのこったと思います。去年もいい思い出にのこっています。

キャンプの思い出

2組 作山耕平

一日目で楽しかったのは、夜にれんたちと、ウノをした事だった。最初はウノをしたら、ねる予定だった。けど、ライトに、虫がよってきた。そしたら、理清がウノをなげた。虫はれんたちといっしょにころしたけれどまだびくびくしていたから、わなをはってねた。おもしろかった理由はキャンプで夜ふかしてウノやるからこうふんした。

二日目はチーリン作りと団活動が楽しかった。チーリン作りはれんたちといっしょにやった。すばらしいほどにみがいちゃったから、絵を書くのがもったいなかった。ツルツルになったからうれしかった。

団活動はジュースを、飲んでとく点をきそうのは、7点とれたからうれしかった。ふき矢は二つ水ふううせんがわれて、うれしかった。

三日目はさわ登りが川ぐつがこわれていたかった。それでも川の中石をふんだり、かえりの山道の木や石をふんでかえた。かえりのバスはれんはねていられどオレはねれなかった。

このキャンプではカレーの作り方やおもしろいあそび道具の作り方などを学んだ。れんとあそぶのすごく楽しかった。他の仲間もふだんは休みだっ

たりするけれど、みんなきて、楽しめた。そしてこのキャンプはじ長としても参加した。組長、次長会ぎ、組きもちとつかれる ことをして、前までできなかったことをしてすこぶ器がふえた。去年とは、くらべものにならない楽しかった。

ボーイスカウトの思い出

2組 次長 落合利安生

ぼくは、今年キャンプに参加できませんでした。今年の活動の一番の思い出は、アスレチックです。つくし野アスレチックに行きました。始めて着がえてからアスレチックに行きました。そして①～⑤まで順番に回っていきました。①番はやはり簡単でした。②③も同じように簡単でした。しかし④番からむずかしくなってきました。「そこで勇気が必要なんだよ～」と隊長が声をかけてくれました。ぼくは思い切って急な角度のシートの上をすべりました。思ったより怖くありませんでした。

ぼくが印象に残ったのは、②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿でした。その中でも一番に残ったのは、㉞番です。なにおきたかと言うと、ならんでいた時に、友達をせかして「落ちちゃう落ちちゃう落ちちゃう」と言って自分の番になったら、調子に乗って、スピードをつけてしまい、いかに先についてしまっさかさになって、「バッシュー—————ン」と水の中に落ちてしまいました。とても寒くてはずかしくて、友達をからかった事を反省しました。

将来の夢



私の10年後または
20年後はパイロット
になりたいです。 小谷理清

ぼくは、10年後は、ローバーたいになっているので、カブでできなかつたやえいもしたいです。 波多野 雅

20年後はラレーン2県をせしる。 10年後はアルバイトで50万。2万円

10年後はアルバイト(コンビニ)

をたいてい名前林 健羊羽

10年後は科学の大学に入りたいたい。関谷章馬

10年後はでた東海大学に行きたいです。 落合利安生

祈り

カブ隊2組 DL 井上恭子

鎌倉5団年末の大イベント「お餅つき」がおわりました。餅ととん汁の準備・片付けを熱心していました。真っ白なお餅、野菜が甘いとん汁……感謝です。

前回の活動は「無人島探検」。美しい自然と戦争跡、愛のトンネル etc 小さな島に魅了されました。なぜ「猿島」と言うのかわかりました。

その前は「つくし野フィールドアスレチック」。時間を忘れて夢中で回りました。お名残り惜しく終えた後のカブ弁の美味しかったこと。

夏季舎営は一生活れられない体験。一面ぎっしりの星空に流れ星を見ました。

その前は「砂像づくり」。固めるのが大変で潮風を感じながら最後まであきらめず取り組みました。その前は「建長寺」。坐禅・読経。きちんと座れました。エレクトーンを弾きながらの朗読は感極まるも

のでした。その前は源氏山での「クリスマス発表会」。組ごとに協力しあって短時間での話作りと小道具製作、完成度の高い演劇発表となりました。その前は「アイススケート」。滑っては転び、真剣でした。レンガ倉庫までの道のりは名所あてビンゴゲームで盛り上がりました。

その前は「野外炊事」。竹筒で炊いた香ばしいご飯を、ナイフで削って作った竹箸で美味しくいただきました。そう、あの日の上進式からカブ隊は新たにスタートし、山内隊長やご指導者の皆様のお陰でこのような貴重な経験を重ねて一年が過ぎました。これからもカブ隊のさだめを守り、引き締めていきたいと思います。

頼りないDLではありますが宜しくお願いします。今年度世界ジャンボリーが開催されましたが、国々に同じ志しのスカウト達が活動し、とても心強いです。今こそ世界平和を祈りたいと思います。

私のボーイスカウト活動

カブ隊 副長 下田香織

鎌倉5団の皆さま、40周年おめでとうございます。カブ隊の副長をお引き受けて、早くも1年が過ぎました。やんちゃで可愛いスカウト達との活動を通して、日々体力作りをさせて頂けますことを有り難く思い、いつも感謝しております。

スカウト達に伝えていきたいこととして一番大切に思っていることは、「何にでも感謝せよ」ということ。何をしても感謝をする心がなくては活動することも良き人間関係を築いていくこともできません。ではどうしたらその心が子どもたちに伝わるのでしょうか。そのためには私たち大人が、保護者一人一人が何にでも不足の心を持つのではなく有難い、有難いと感謝をし日々を振り返り反省していくことが大切で自らの身を正していく事ではないかと思えます。感謝をすることで他を思いやる心を育て、信頼される成人に成長していくのだと確信します。活動を通して共に思いやりの心を育て、今後の活動も楽しく良き関係を築き、笑顔で過ごして参ります。

どのスカウトもとても綺麗な目をしており輝いています。本当に可愛い子たちばかりです。少しずつですが色々な力をつけているスカウト達に負けないように、私自身ももっともっと成長していかなばと思えます。

40周年おめでとうございます

カブ隊長 山内政敏

周囲の皆様温かいご支援のお陰で毎回楽しく活動ができていことに大変感謝しております。私は、木曾川河川敷など濃尾平野の恵まれた自然環境の中で思う存分遊び、様々な思い出が沢山あります。それに比べて今の子ども達が育っている環境があまりにも限られた範囲で制限も多く、TVゲームなどの普及もあり、より一層室内のバーチャル世界で遊ぶ時間が多くなっております。室内にいることで大人の監視が厳しく、また親からの「いい子でいてほしい」と漠然とした期待がより強く投げ掛けられるように感じています。

せめて私と一緒にいる時間は、私が体験してきたワクワク・ドキドキをリアルの大自然の中で誰にも邪魔されず、子ども達が群れて遊ぶ環境を提供してあげられたらと考えております。活動を通して、スカウト達が主体的に物事に取り組み判断し、群れの中で人との協調等、将来、世の中で役に立つようになるために何かを少しでも感じてくれることを願っております。

カブスカウトが生き生きと輝き夢中になって活動し、自らの意思でボーイ隊に上進するようにこれからも微力ではございますが、関係者の皆様とともにご奉仕させて頂ければ幸いです。

これからも大人達自らも楽しみながら幸福な人生となるようやっていきたいと思います。

私の好きな“おきて”、そして将来の夢

私の夢を叶えるには

ブレイブボーイ班 班長 **高田愛麻**

私は将来、海外に行き、**ユニセフで働きたい**と考えている。そのために世界ジャンボリーに行き、世界の色々な文化を知ったり、色々な国の人と色々な言語で話したりして交流を深めたいと思う。

まず、世界の色々な文化を知ること、貧困、少子化などが進んでいる国について知り、普段から**「スカウトは質素である」**を心掛けて生活したい。そうすることで、日本の使われていない服などを貧困に苦しんでいる国に届けられると良いと思っている。

また、色々な国の人と色々な国の言語で話すことで、色々な国の言語を知ることができて、将来海外で働く時に役立てることができる。そして**「スカウトは友情にあつい」**に心掛け、海外のスカウトと友情を深めたい。

さらに、私は世界ジャンボリーの一年前にある日本ジャンボリーにも行って、色々な体験をして、将来自分のやりたいことを叶えるための一歩にしたい。

僕の目指す未来

ブレイブボーイ班 次長 **宮井駿岳**

僕の好きなスカウトのおきては、**「スカウトは友情にあつい」**である。それは僕の将来になりたい職業と関係がある。僕は、6年生の夏からひどく特撮映画にはまってしまった。それからというもの、僕は自分で**特撮映画を作りたい**と思うようになった。が、しかし当然ながらセットやらなんやらを僕一人で作れるわけがない。

そこで前に書いたおきてである。もしも、その映画作りに人が集まっても、その人たちが協力してくれなければ、何一つ完成することはできない。つまり、あのおきては「好きな」というよりは「死守したい」という方が正しいのかもしれない。それはおそらく死ぬまで守ることになるだろう。

さて、僕は将来の夢へと向かって、二級スカウトになる準備と、テスト対策を始めたいと思う。

プロを目指して

ブレイブボーイ班 **下田恭平**

ぼくは将来**プロのバスケットボール選手**になりたいです。

バスケットボールは、ぼくが一番好きなスポーツで、小学校で習っているバスケットボールの技術をいかし、バスケットボール選手をめざしたいです。

ぼくが一番好きなおきては**「スカウトは友情にあつい」**です。なぜ、ぼくが「スカウトは友情にあつい」をえらんだかというと、プロのバスケットボール選手になったら仲間と協力してうしろをめぐすいきおいで何ごともあきらめずに仲間と協力してがんばりたいです。



日本の良さを伝えるために

ブレイブボーイ班 **中村甲一朗**

ぼくは、40周年の式典の時に、と中でたおれてしまいました。原因は水分不足でした。二度とたおれることの無いようにしたいと思いました。そして、50周年の式典の時には、たおれずにいたいと思います。だから**「スカウトは快活である」**というのを大切にしたいと思いました。「快活」の意味は、はきはきして元気なこと。と書かれていたので、常に元気でたおれたりしないようにしたいと思います。

僕の夢は、**外国人に日本の良さを伝えること**です。日本の良さは、戦争がなく、豊かなことです。ぼくは、50周年の時に21才になります。そのころまでに英語などを勉強して外国人とコミュニケーションがとれるようになりたいと思います。でも、ぼくはまだ日本人ともうまくコミュニケーションがとれているか不安なので、快活になることを心がけていくことで、元気ではきはきとしたスカウトを目指したいと思います。

信頼される人になりたい

ブレイブボーイ班 **堀添俊介**

ぼくの将来の夢の一つは、**「世界スカウトジャンボリー」**に行くことです。世界スカウトジャンボリーに行くためには、色々なスカウト技能を取らなければいけないことです。ぼくはまだ始めて一年ちょっとしかたっていないから、まだ知らないこともたくさんありますが、一つだけ好きなおきてがあります。それは**「スカウトは誠実である」**です。なぜなら、みんなから信頼される人になりたいからです。信頼されるということは、すべてをパーフェクトにできるということです。

ぼくは、みんなから信頼される、つまりパーフェクトに出来る人になりたいからです。パーフェクトになって、世界スカウトジャンボリーに行き、僕の将来の夢がかなうそのために、スカウト技能や色々なことをやって、世界スカウトジャンボリーにおいてがんばっていきたくと思っています。

夢への挑戦

ブレイブボーイ班 **小谷優清**

僕の将来の夢は**プロのバスケットボール選手**になることです。僕がバスケットボールを始めたのは、一年生の時、父にスラムダンクの動画を見せてもらったことがきっかけでした。僕はスラムダンクを見て、桜木花道みたいに努力して上手になりたいと思いました。そこで早速、学校のバスケットボールチームに入って練習をはじめました。

僕はスカウトのおきての中で**「スカウトは勇敢である」**が一番好きです。バスケの試合で負けそうになっても、最後まであきらめずに、この気持ちをしっかり持って、将来の夢に挑戦したいと思います。

ボクの夢は科学者

ブレイブボーイ班 **小川幸太**

僕には、将来の夢があります。それは**化学者**です。まだ見つかっていない物質を見つけて、医療などにも使えるようにしていきたいと思っています。

ボーイスカウトには、8つのおきてがあります。僕は、その中で**「スカウトは感謝の心をもつ」**というのが気に入りました。自分が何かをしようとして、出来たということは、自分の力だけでなく、教えてくれた人、見守ってくれた人などの支えてくれた力に気づき、感謝できることがとても大切だと思います。

これからの人生でも、感謝する時は来ます。そういう時に感謝の心をもてる人間になりたいです。まだまだ未熟なので、もっともっと成長していきたいと思っています。

一番楽しいのは……

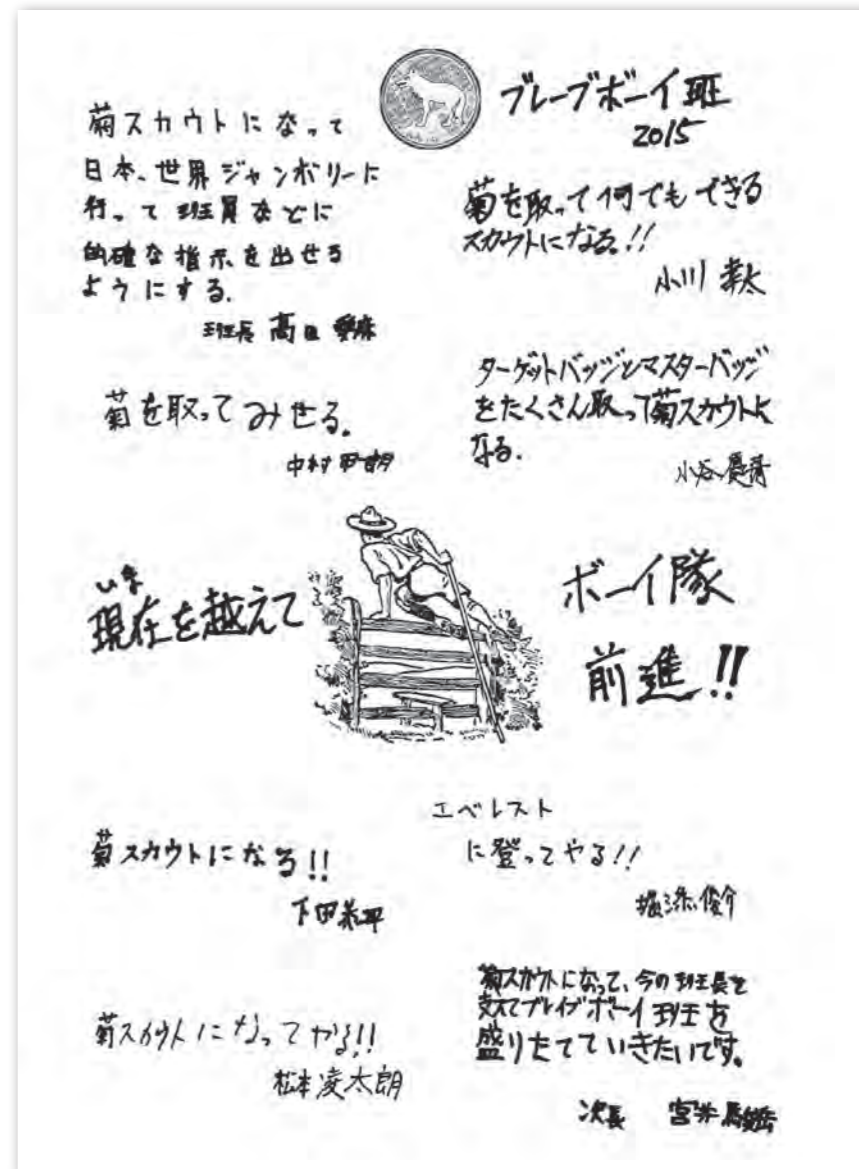
ブレイブボーイ班 **松本凌太郎**

僕の将来の夢は、**バスケットボール選手**です。バスケットを始めたのは2年のころで、いまだ4年間バスケットをやっている、ぼくもプロの世界でやってみたいと思いました。

ボーイスカウトのおきてについて、ぼくは**「スカウトは友情にあつい」**をえらびました。なぜかという、それはバスケットでも、あそびでも何でも、友だちや仲間を大切にすることは、大事なことからです。

将来のことについて言えば、本当はいろいろなやんでいて、なにになろうかまよっているところです。でも今一番やっていて楽しいことは？と聞かれたら、バスケットボールと答えます。

具体的には決まってないけど、今自分にできることに、目標をもって進みたいです。



世界ジャンボリー参加報告

第23回世界スカウトジャンボリー
 会期：2015年7月28日(火)～8月8日(土)
 会場：山口県阿知須・きらら浜

参加者：世界155の国と地域から約3万4,000人
 参加対象者：世界各国の14歳から17歳のスカウトと引率指導者
 18歳以上のスタッフとして参加した指導者

ベンチャー隊 木村海生

八月五日、平和について考える、広島ピースプログラムという活動があった。

きらら浜からバスで約二時間移動し、原爆ドームへ行った。この日は記念式典の前日で平和について考えるのにはいいタイミングだと思った。私は資料館に行き、原爆が爆発した時に出た煙の写真や、爆発した時間に止まった時計などを見たり、爆発の熱により形が変形したレンガやガラスを触った。その後、大きなホールに集まり、原爆の被害の動画を見て、各国のスカウトが原爆や平和について自分の意見を発表した。私は他国の言語がよくわからなかったため言っていることを全て理解することができなかったが、皆原爆の無い平和な世界を望んでいたと思う。私もこの活動で原爆の恐ろしさを改めて実感し、原爆の無い平和な世界になってほしいと思った。

活動後、私は自分の班で未来の平和について話し合った。班員からたくさんの意見を聞き、私は、国の防衛上原爆を完全に無くすのは難しいと思った。そのため、未来の平和について私たちスカウトに大切なことは、本や映像だけでなく、今回の活動のように実際に平和について関わりのある場所へ行き、体験したことをメッセージボードとして後輩スカウトなどの他の人々に伝えていくことが必要であると思った。



ベンチャー隊 守田 渉

私は23WSJで自分に足りないものを沢山見つける事ができたと思います。

例えば、積極性や自己管理能力です。本来なら私は年齢的に引っ張っていく立場でしたが、物を無くしたり、進んで話さなかったりと迷惑ばかりかけてしまいました。

自分を見直すいい機会になりました。もう次はありませんが、日々の生活で生かしていきたいと思っています。

ご支援くださった方々、ありがとうございました。

ベンチャー隊 鈴木唯央

1日の朝の起床は日にちによりますが食当が大体5時でそれ以外の人は6時くらいの起床でした。

朝起きるとまず朝食を食べます。朝ごはんはコーンフレークとヤクルトとヨーグルトなど軽目の食事が多いです。でも外国人に量は合わせてるので1食でもお腹いっぱいになりました。

そして朝食後にセレモニーがあります。そしてセレモニー後はプログラムの時間まで自由時間となります。プログラムまでは名

刺や交換品を交換します。

プログラム中に昼食はパンが多いのでその場でとります。昼食で食べきれなかったパンなどは夜たべたりもしました。パンの種類ですがフランスパンやふつうのパンにジャムがついてるものやソーセージパンなどができました。ソーセージパンはあの場で食べるとすごく美味しいものに感じました。

プログラムは夕方に大体終わります。そしてテントに戻ります。プログラムはすごく疲れるものもあったのでテント戻って休みたいと思いますが、戻ったらすぐに夕食を

作り始めます。夕食はカレーやハンバーグなどのよくお腹にたまるものを食べます。

そして食べ終わったら皿洗いなどをすまして歯磨きいき、時間があればシャワーに行きます。シャワーは時間がある時ならいつでも使用でき水圧も強めでした。

洗濯はシャワーの時にしますシャワー室の前にある水道で洗濯をしました。そしてテントにある物干し竿にほしました。

トイレは工事現場などによくある仮設用トイレでした。

きらら浜は設備がよくとどいていて、住みやすい10日間でした。



編集後記

40年、論語でいえば「不惑」といいますが、5団の歴史を振り返ったとき、ぶれない活動をしていたと感じました。時代の流れの中でさまざま変化を求められると思いますが、発団当初のスピリッツを今後ともそれぞれの世代が引き継いでいただければと思います。

40周年実行委員会 中村聡一郎



5th KAMAKURA Group
Kanagawa Scout Council